

各位

本年はモーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団の活動にご理解・ご支援を賜り、誠に有難うございました。

来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団より日本語ニュースレターを配信いたします。今後とも財団の活動にご理解、ご協力を賜わりたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団東京事務所

モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団ニュースレター

2020年12月23日

第25期マンズフィールドフェローのための訪日前オンライン・セミナー：第2回・第3回実施

11月19日と12月10日、マンズフィールド財団東京事務所は、[マンズフィールド・フェローシップ・プログラム](#)第25期研修員にそれぞれ第2回及び第3回の訪日前オンライン・セミナーを行った。第2回は、早稲田大学の中林美恵子教授が日本の政治制度等について米国と比較しながら説明し、第3回は米国通商代表部(USTR)日本担当代表補代理のデビッド・ボーリング氏が自身のマンズフィールドフェロー(第5期)の経験を基に、日本の行政組織で働くための10のアドバイスをを行った。なお、中林教授は現在、マンズフィールド財団の名誉フェロー。またボーリング氏は前職で、マンズフィールド財団の副理事長(2011年-2015年)を務めた。



CFM オンライン・ポリシー・イベント開催：ジャヌージ理事長とNHK 道傳愛子氏対談

11月24日、マンズフィールド財団は、[コーポレート・フレンズ・オブ・マンズフィールド \(CFM\)](#)のオンライン・ポリシー・イベントを開催し、フランク・ジャヌージ・マンズフィールド財団理事長とNHKワ

ールド TV シニア・ディレクター道傳愛子氏の対談形式で先月行われた米国大統領選挙を振り返った。



日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワークプログラム：第1回内部セミナー実施

11月30日夕(日本時間12月1日朝)、[日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク・プログラム](#)第5期参加者による第1回内部オンライン・セミナーを実施した。本来であれば、今年5月に訪日スタディツアーが行われ、秋にそれぞれの研究成果発表のシンポジウムが行われるはずであったが、新型コロナウイルス感染の影響で、それぞれ1年程度の実施延期となった。今回はそのような状況の中、自身のモチベーション維持と参加者同士の切磋琢磨を図ることを目的に、内部オンライン・セミナーを来年7月までに5回開催し、それぞれの研究テーマについて各回3人が10分程度の簡易な発表を行うこととなった。今回は、クリスタル・プライア博士(パシフィック・フォーラム非拡散・テクノロジー・フェローシップ部門ディレクター)、ジョン・ブラッドフォード氏(シンガーポール・ラジャナトナム国際研究所シニアフェロー)、スコット・ハロルド博士(ランド研究所上級政治アナリスト)が発表を行った。

[第5期参加者のプロフィール](#)

マンズフィールド財団主催ウェビナー「トランプ政権後の米国のアジア政策：第一線の米国ジャーナリストの視点から」を開催

2020年12月2日夕(日本時間3日朝)マンズフィールド財団主催ウェビナー「トランプ政権後の米国のアジア政策：第一線の米国ジャーナリストの視点から」が開催された。

(本ウェビナーは以下のURLからご視聴いただけます。)

<https://www.youtube.com/watch?v=IOCqUJvcXQg>

在米日本国大使館支援による「世界における日米協力ウェビナー・シリーズ」を実施

マンズフィールド財団は、在米日本国大使館の支援を受けた「世界における日米協力:2020 年とその先」シリーズの一環として、今月 2 つのウェビナーを開催した

[第 1 回「ビッグ・アップデート:テクノロジー政策における日米アライメントのための急務と方策」](#)

12 月 10 日夕(日本時間 11 日朝)、スピーカーにジェームズ・ショフ氏(カーネギー国際平和財団)、クリスタル・プライア博士(パシフィック・フォーラム)、またモデレーターに榎田健児博士(スタンフォード大学 APARC)を招き、日米のテクノロジー政策についての議論を行った。

(動画ご視聴ご希望の方は、上記、イベントタイトルをクリックしてください。)

[第 2 回「安定の礎石:アジア太平洋における日米関係」](#)

12 月 11 日昼(日本時間 12 日深夜)、スピーカーに片桐範之准教授(セントルイス大学)とクリスティン・ヴェカシ准教授(メイン大学)を招き、日米同盟がアジア太平洋地域での安定維持に果たす役割について議論した。

(動画ご視聴ご希望の方は、上記、イベントタイトルをクリックしてください。)

マンズフィールド財団・PhRMA 共催オンライン・シンポジウム開催

12 月 20 日にモーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団・米国研究製薬工業協会(PhRMA)共催のオンライン・シンポジウム「Mansfield-PhRMA Translational Research Symposium ~ Learn from the past and challenge the future ~」が開催され、[マンズフィールド-PhRMA 研究者プログラム](#)の同窓スカラー 2 名、大熊ひとみ氏(第 7 期スカラー/国立がん研究センター中央病院 国際開発部門 研究企画推進室 室長)及び勝野雅央氏(第 2 期スカラー/名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科学 教授)が登壇した。シンポジウム第 2 部のパネルディスカッションでは、勝野氏の進行のもと、パネリストには、上記 2 名に加え、中村健一氏(国立がん研究センター中央病院 国際開発部門長)、石橋太郎氏(PhRMA Science & Regulatory Leadership 委員会 委員長(ファイザーR&D 合同会社 社長))を迎え、日本のトランスレーショナル・リサーチの現状・課題や産官学の連携等について活発な議論を行った。また議論中には、他の同窓スカラーも、本プログラムの参加後のキャリアパスについても共有した。

マンズフィールド-PhRMA 研究者プログラムは米国研究製薬工業協会(PhRMA)の支援を受けて、2013 年より「ヤング・サイエンティスト・プログラム」の一環として実施している(2020 年度の実施は新型コロナ感染拡大のため中止)。また、本年度より同窓生を対象としてオンラインでのセッションを実施しており、11 月 20 日にはスカラー 20 名が参加し同窓会を実施、12 月 8 日には「チャン・ザッカーバーグ・バイオハブ」共同責任者のクエイク教授をゲストに迎え議論を行った。

バイデン氏の初期の政治キャリアを支えたマンズフィールド大使(モンタナ・スタンダード紙記事及びジャヌージ理事長談より)

バイデン次期大統領が上院議員就任時、交通事故で妻子を失い議員職を諦めかかっていた際、当時上院の多数党院内総務を務めていたマイク・マンズフィールド大使がバイデン氏を支えたストーリーが、大使とゆかりのあるモンタナ州の地元紙「モンタナ・スタンダード」で取り上げられた。バイデン氏が上院議員時代に委員長を務めた米国上院外交委員会の政策部長(東アジア及び太平洋地域担当)を務めたマンズフィールド財団のジャヌージ理事長は、「この記事に書かれていないのは、当時院内総務であったマンズフィールド大使は、数年間新人時代のバイデン氏と毎週のように会合を持った。バイデン氏は、マンズフィールド大使が院内リーダーとして全新人議員と毎週会っていたと思っていたが、実はそれはバイデン氏だけだったようだ」と語った。

「マイク・マンズフィールドがどのようにジョー・バイデンの政治キャリアを救ったか」

モンタナ・スタンダード紙、2020年11月30日

[How Mike Mansfield saved Joe Biden's political career](#) (外部リンクに移動、英語)

ジャヌージ理事長インタビューが西日本新聞に掲載

マンズフィールド財団フランク・ジャヌージ理事長が西日本新聞のインタビューを受け、そのインタビュー記事が掲載された。

[「対中国、多国間協調を重視 バイデン政権 米国の識者、フランク・ジャヌージ氏に聞く」](#)

(外部リンクに移動、西日本新聞、2020年11月30日)

マンズフィールド・フェロースHIP・プログラム第25期フェロー紹介(4) - 2021年夏以降研修開始予定

English follows Japanese

●クレイグ・エリオット(Craig Elliott)

米国農務省 海外農務局 貿易政策及び地域別担当 アジア太平洋課 貿易政策官(農務省海外勤務職員研修生)



私は現在、米国農務省で台湾、香港、マカオ、モンゴルを担当する貿易政策官としてアジア太平洋課に配属され、農務省の海外勤務職員になるための研修を受けています。この研修に加え、担当国に対して米国の農産物の輸出量を増やすための業務にも携わっています。

農務省の前は、商務省の国際貿易局に在籍しており、様々な職務を経験し、直近ではアジア室の南東アジア担当官を務めました。

過去には、自由で開かれたインド太平洋地域のビジョンを推進するために設けられたインド太平洋商業調整チームや、米国企業が中央アジア、ヨーロッパ、中東、北アフリカでの政府官庁入札をする際に支援する貿易アドボカシーセンターに勤務したこともあります。政府関係以外の職業では、プロ野球関連の販売・運営の他、中小ビジネス、非営利セクターでの経験、またピースコープス(平和部隊)でカザフスタンに派遣されたこともありました。

マンسفールド・フェローシップ・プログラムにおける私の目的は、日本政府がどのように農産物の輸出入政策を立案・実施しているかということへの理解を深めることです。健全な農産物貿易は日米関係の要の一つであり、第 25 期マンسفールドフェローとして、二国間関係の強化に貢献できればと思っています。

私は以前に 3 年以上日本に住んでいたことがあり、今度はマンسفールドフェローとして訪日する機会をととても楽しみにしています。

Mr. Craig Elliott

Trade Policy Officer (Foreign Agricultural Service Officer Trainee), Asia Pacific Division, United States Department of Agriculture

I am a Foreign Agricultural Service Trainee currently assigned to the Asia-Pacific Division as a Trade Policy Officer covering Taiwan, Hong Kong, Macau, and Mongolia. My work primarily focuses on increasing exports of American agricultural products to the aforementioned markets, in addition to other training to become a Foreign Agricultural Service Officer.

Prior to joining the U.S. Department of Agriculture, I worked for the U.S. Department of Commerce's International Trade Administration in various roles, most recently as a Southeast Asia Desk Officer in the Asia office. I also worked on the Indo-Pacific Commercial Coordination team to advance the vision for a free and open Indo-Pacific region. In addition, I spent time in the Trade Advocacy Center office, assisting American companies to win foreign government tenders in Central Asia, Europe, Middle East, and North Africa. Other professional experience

includes professional baseball sales and operations, Peace Corps Volunteer in Kazakhstan, small business management, and nonprofit sector.

My aim during the Mansfield Fellowship is to develop an in-depth understanding of how the Government of Japan formulates and implements agriculture policy for imports and exports. Robust agricultural trade is an important component of the U.S.–Japan bilateral relationship, which I hope to further strengthen as a 25th Class Mansfield Fellow.

I previously lived in Japan for more than three years, and I am greatly looking forward to the next opportunity as a Mansfield Fellow.

●ヴェロニカ・ケネディー (Veronica Kennedy)

米国海軍 少佐 外務士官 (FAO)



現在、私は戦闘展開のための海軍作戦部長室で勤務しており、戦略的戦闘イノベーション・セル (SWIC) フェローとして、米国海軍にとって優先度の高い主要な作戦における問題点の分析と解決の開発の任務に就いています。ペンタゴン (国防総省) には、2018 年から働いており、はじめは海軍作戦部長室における重要な国際業務、特に日本、オーストラリア、韓国、東南アジア、オセアニア諸国との同盟及びパートナーシップ構築を直接支援する業務を担当していました。

海軍の任務において、日本の佐世保と横須賀にそれぞれ住んだ経験があります。2011 年 3 月、佐世保の米国海軍のドック型揚陸艦トーテュガに乗船していた際、私たちの船は東日本大震災の地震と津波で荒廃した東北で人道支援と災害救助の支援を行うトモダチ作戦への要請を受けました。その後の 2018 年に、市民と軍の連携を基盤とする軍による人道支援作戦と災害救援作戦の関係についての修士論文を書き、トモダチ作戦中の海上自衛隊の例を私の研究と発表の要点として取り上げました。

マンスフィールドフェローとして、日米の安全保障協力を高める方策を模索できばと思っています。日米関係への日本の視点を理解することが、この偉大なパートナーシップを維持することにつながる大事な要素であると考えています。また、日本と米国の間には、すでに堅固な防衛協定がありますが、私は、安全保障だけでなくそれ以上の意味合いで、両者の同盟とパートナーとしてのネットワークを強化するために、世界における日本の二国間関係への識見をより深めたいと願っています。最後に、私の研修期間中、米国国防総省が人道支援作戦のアプローチを独立的に行

うのであれ、自衛隊と協力して行うのであれ、相互に改善しうる教訓を学び、かつ新しい人脈を広げたいと思っています。

Ms. Veronica Kennedy

Lieutenant Commander, Foreign Area Officer, United States Navy

Currently, I serve on the staff of the Deputy Chief of Naval Operations for Warfighting Development as a Strategic Warfighting Innovation Cell fellow, responsible for analysis and solution-development of high-priority key operational problems for the U.S. Navy. I have worked at the Pentagon since 2018, first as a desk officer responsible for spearheading the Chief of Naval Operations' critical international engagements, specifically in direct support of building allies and partners with Japan, Australia, South Korea, Southeast Asia, and Oceania.

I lived in both Sasebo and Yokosuka during separate assignments within the Navy. While stationed onboard the USS TORTUGA (LSD 46) in Sasebo, our ship was called upon during Operation TOMODACHI to assist with Humanitarian Assistance and Disaster Relief efforts following the devastating March 2011 Tohoku earthquake and tsunami. Accordingly, I published my 2018 Master's thesis on the relationship between military humanitarian assistance and disaster relief operations on civil-military relations, with the example of the Japan Maritime Self-Defense force during Operation TOMODACHI at the crux of my research and publication.

As a Mansfield Fellow, I look forward to exploring ways to enhance Security Cooperation between Japan and the United States. Understanding Japan's perspective in our relationship is key to ensuring we remain great partners. Additionally, given the already robust defense engagement between Japan and the U.S., I hope to also gain more insight into Japan's bilateral relationships around the globe, both in the context of security and beyond, in order to strengthen our network of allies and partners. Finally, I will gather key lessons and new contacts during my Fellowship that may mutually improve the Department of Defense's approach to humanitarian relief operations, both independently and together with the Self-Defense Forces.

● **ジェレミー・クリーゼック (Jeremy Krizek)**

米国財務省 外国資産管理室 制裁措置執行官



私は、米国財務省の外国資産管理室(OFAC)の制裁設置執行官をしています。OFACは、米国の外交政策及び国家安全保障の目標に基づき経済・貿易制裁を管理・施行しています。私はOFACで、米国の制裁関連法に違反しているかもしれない米国市民に対する民事行政調査の遂行と関連法規へのコンプライアンスを促進する業務を担当しています。

制裁設置執行官として、日米政府が重要な資源を、経済成長促進と国家安全保障の権益保護を目的とした国内・国際経済及び貿易法規の立案・実施・執行に充当していることを学んできました。近年、両国だけでなく、国連などの国際組織は、違法行為、国際テロリズム、大量破壊兵器の拡散、北朝鮮のようなならずもの政権への抑止や戦いの努力の一環として、経済・貿易制裁を外交政策や国家安全保障の手段に用いてきました。

資金洗浄法令や制裁コンプライアンス法規は、日本と米国における堅固な国家金融政策への要となります。OFACは、米国の金融システムのインテグリティを悪意ある行為者から守るために精力的に活動しています。研修中に、米国に対応する銀行業務や政策、手続きへのコンプライアンスを支援する日本の国内努力や米国の金融システムとの相互活動などを学べればと思っています。

私の日本への興味は、自分が育ったモンタナでのこども時代に始まりました。高校1年生の時には、ロータリークラブの青少年交換プログラムに参加する機会を持ち、青森県三沢市のホストファミリーと1年間一緒に生活をし、現地校にも通いました。日本語や日本文化、豊かな歴史についての理解をより深めていければと思います。

研修終了後は、相互の優先事項と利益を推進する日本の貿易振興についての重要な知見をOFACにもたらず一助になればと願っています。

OFACと日本政府の二国間関係をより強固にしたいと思っています。米国が行う国際貿易の自由な流れを確保し、国際貿易の悪用者を隔離するための制裁やコンプライアンスについてのベストプラクティスを日本のカウンターパートと共有することを考えています。日本の人々とあらたな繋がりを築き、日米のユニークな文化的側面の橋渡しをするため、日本に戻るという機会をこのフェロウシップは与えてくれます。マンスフィールド・フェロウシップ・プログラムに参加し、より強固な日米関係に貢献することによって、これらの期待を叶える機会をいただき、訪日を大変楽しみにしています。

Mr. Jeremy Krizek

Sanctions Enforcement Officer, Enforcement Division, Office of Foreign Assets Control, U.S.
Department of the Treasury

I work as a Sanctions Enforcement Officer in the U.S. Department of the Treasury's Office of Foreign Assets Control (OFAC). OFAC administers and enforces economic and trade sanctions based on U.S. foreign policy and national security goals. I am responsible for conducting civil administrative investigations into U.S. persons who may be in violation of U.S. sanctions laws, and to promote compliance with these regulations.

As a Sanctions Enforcement Officer, I have learned that the governments of the United States and Japan dedicate significant resources to designing, implementing, and enforcing domestic and international economic and trade regulations aimed at fostering economic growth and protecting national security interests. In recent years, both nations, as well as international organizations such as the United Nations, have utilized economic and trade sanctions as a tool of foreign policy and national security in an effort to deter and combat illicit behavior, international terrorism, proliferators of weapons of mass destruction, and rogue regimes such as North Korea.

Both anti-money laundering and sanctions compliance tools are key to strong national monetary policy in Japan and the U.S. At OFAC, we actively work to protect the integrity of the U.S. financial system from nefarious actors. I hope to learn more about Japan's domestic efforts, and its interaction with the U.S. financial system to support compliance with correspondent banking, policies, and procedures.

My interest in Japan started at a young age while growing up in Montana. During my junior year in high school, I had the opportunity to participate in the Rotary Youth Exchange Program where I spent a year living with a host family and attending high school in Misawa, Aomori Prefecture, Japan. I hope to build on and further my understanding of the Japanese language, culture, and its rich history.

Upon completion of the Mansfield Fellowship, I hope to help provide OFAC with critical insights on Japanese trade promotion that will help to further mutual priorities and interests.

I hope to foster a strong bilateral relationship between OFAC and the Government of Japan. I plan to share best practices with my Japanese counterparts on U.S. sanctions and compliance to ensure the free flow of international trade, while isolating nefarious actors who seek to exploit it. This fellowship is an opportunity to return to Japan to make new connections with the people of Japan and bridge the unique cultural aspects of both the United States and Japan. I am excited about the opportunity to marry these ambitions by participating in the Mike Mansfield Fellowship Program and contributing to a stronger U.S.-Japanese relationship.

[モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団 日本語ホームページ](#)



**THE MAUREEN AND
MIKE MANSFIELD FOUNDATION**

Connecting People and Ideas to Advance Mutual Interests in U.S.-Asia Relations

- [f Facebook](#)
- [t Twitter](#)
- [✉ Email](#)
- [🔗 Support](#)